

祐善寺だより

第50号

発行日

2023年7月5日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170

『祐善寺だより』 発行50号を迎えて

住職 岡崎 賢

平成12年2月に『祐善寺だより』第1号を発行して以来、このたび発行50号を迎えることができました。23年の歳月を経ての50号です。

タツフの皆様には、すいぶん、ご苦労をおかけしてきました。印刷をせかしたり不完全な原稿を出してもクレームもなく校正して頂き、イラストやレイアウトもお任せのままで読みやすく仕上げてくださいました。

これひとえに、発行のたびに隔々まで読んで下さった方々、原稿を寄稿して下さった方々、また、発行のたびにお便りやエールを送って下さった多くの方々、たくさんの人たちに支えられたの50号です。そして、第1号以来、『祐善寺だより』の印刷等を受けて下さっている河和田屋印刷株式会社のス

このように、本当にたくさんのご縁をいただいている人たちの支えがあった50号を迎えることができました。本当にありがとうございます。49号までのバックナンバーを読み返していますと、この23年の歴史は、祐善寺にとり

忌法要、平成17年の本堂屋根瓦葺替事業、平成20年の総墓移設事業、平成29年の第二駐車場の造成、……。今年は悲願の寺標の建立。
毎年炎天下での草刈奉仕作業、寒空下での雪囲い奉仕作業、平成22年からは、すっかり当寺の看板行事となった納涼祭&こども報恩講もはじまりました。本当に本当にありがとうございます。ただただ、合掌して御礼申し上げます。ばかりでございます。

ましては、門信徒様や関係各位の多大なるご支援を頂いて大きくジャンプした歳月であったと、ただただ感謝の念を深くしているところでございます。

『祐善寺だより』は、祐善寺の新たな歴史と門信徒の皆様、有縁の皆様からの温かい玉稿を記録して今後も発行していきたいと願っております。皆様からの、さらなるご支援、ご寄稿等を伏してお願い申し上げます。



平成14年5月の蓮如上人御遠

合掌

境内に寺標が建立されました！

— 5月13日に除幕式を執行 —

住職 岡崎 賢

当寺にとって、いや住職の私にとって寺の玄関口の表札ともいえる寺標は、のどから手が出るほど、境内に揃えたいものでした。

その悲願がこのほど、成就しました。愛知県春日井市在住の横田ちづる様の叔母様の三回忌法要の記念として横田様から寺標のご寄進を頂いたことです。

去る5月13日、春日井市から横田様ご夫妻にご列席賜り関係者も交えて寺標除幕式を執行させていただきました。

横田様の叔母様のお骨が、当寺境内に設置している永代供養墓へ納骨を

お受けしたご縁によるもので、この誠に不思議で尊くて極めて有難いこのたびのご寄進に、心より感謝申し上げます。

この寺標を施工された増谷石材工業株式会社の増谷社長様は、除幕式の施工者代表挨拶で、この寺標は、他に類を見ないほど立派な寺標ですと絶賛して下さいました。インド産御影石のアーバングレーという吸水率が低く経年劣化も目立たない石材で、いつまでも光り輝いて祐善寺の境内で参詣者をお迎えしてくれることでしょう。本当に有り難うございました。

立派な寺標のご寄進をいただきました！



佐渡の赤石？

福井市 島 洋

数年前、空き家となっていた生家を家督を継いだ甥が取り壊すことになりました。家には母が嫁いできたときの古い長持ちや田植え用の杵など、今では使えなくなった家財等が沢山出て来ましたが、ほとんどが廃棄処分となりました。そのようなか、思いもよらないものが出てきました。直径約20センチ、重さ約16キロ、乾いた小豆の餡みたいな色をした一個の石と、いわれを書いた父のメモが出てきたのです。

メモによれば、60年ほど前、役僧をしていた父が、青森県鱒ヶ沢のお寺へ仕事で行ったとき、土産にもらった「佐渡の赤石」ではないかと思われた石でした。「佐渡の赤石」といえば、

◆若者川柳

小倉 野村 明良

若者が 寺を守るは たのもし

(寺の作業奉仕(草刈・雪囲い)の時、若い人を見ると本心に頼もしく嬉しく)

念佛を 忘れた若者 大暴走

(新聞・テレビで若い人の事件を見ると、心が痛む、悲しいです)

年寄りの 手を引く若者 微笑まし

(若い人が年寄りの手を引いて歩く姿、思わず笑みがこぼれます)

かの渋沢栄一氏が所有し、大切にしていたことで有名な銘石です。しかし、石の表面はざらざらで乾いた小豆の餡みたいな色で、どう見ても銘石とは思えない姿をしていました。

甥は、この石、兄ちゃんにあげるよ、と言ってくれたので、父の思いを形にしてあげたいと思い、いただきました。「佐渡の赤石」だとすれば、佐渡から鱒ヶ沢まで直線距離にして約400キロを相当の時間をかけて海流に流されて鱒ヶ沢にたどりついたものと想定されます。その石が鱒ヶ沢で拾われ、父によって約700キロの道のりを持ち帰ったことになりました。父の苦勞を思い、石材店に研磨を依頼しました。石は相当固いらしく、石材店で艶を出すのに二日掛かったとお聞きしました。磨きあがったものを見たら、「おはぎ」のような色に変わり、所々に白い色が混じって「おはぎ」そのもののようになつてきました。赤い色ももう少し際立っていれば、まさしく「佐渡の赤石」だと思われれます。

今は、我が家の床の間で「おりん」用座布団の上に鎮座しています。毎朝読経を終えた後に石をさすり、亡き父に今日の健康を報告し、感謝の気持ち伝えていきます。

確かに光り輝いている赤石です！



祝・若院ご結婚

筆頭総代 上野 三千男

入梅とともに紫陽花の美しい季節に、また、親鸞聖人のご生誕850年節目の年に当たり、若院のご結婚報告を受け門徒、祐善寺役員一同心よりお祝い申し上げます。

これ偏に岡崎家の皆様の日頃よりの門・信徒に対する誠実な態度、日頃の仏事など私たちには想像を超えるものがあり、苦勞があつたことと思ひます。この40年間を振り返ってみますと、親子二代にわたる住職のご結婚、今回のお祝い事に接することができ、私自身、大変感謝をしているところで。これから、健康に留意され、門・信徒の道標として活躍ください。次は、若のご誕生を心よりご祈念申し上げます。

「祐善寺 万歳、万歳」

『なかん滝』

福井市 島 正明

祐善寺開祖、泰澄大師が修行のために毎日登つたとされる越知山、山頂へ行くには幾つかのルートがあります。この中で少し険しい登山道とされている木の実谷コースの一合目に『なかん滝』という名の付けられた素晴らしい滝があるのを皆さんはご存知でしょうか。

登山口から歩いて五分、標高差で二十メートルほど登ると、半世紀ほど前までは稲作が営まれていたことが忍ばれる、石積みみの棚田跡に建てられた「一合目かなん滝」と書かれた標柱に辿り着くことができます。

そしてそこから西側に広がった谷をみると、なんと池田の龍双ヶ滝、朝倉氏遺跡近くの一乗滝、嶺南の名田庄村の野鹿の滝などよりはるかに素晴らしい滝を目にすることができるとは。滝口からの流れは一筋ですが、途中で何本にも別れそして中段では川の字のように二本に纏まって下まで落ちる、落差が三十メートルを超える末広がりが見事な滝、滝の下まで近づくとマイナスイオンを感じることができます。

さらに標柱から十メートルほど戻った地点からよく見てみると、少し右側に視線を移した杉の木立の間からもう一つ別の滝も見えてくるのです。この滝も近くまで行くことができますが、このよつな二本の滝が並んで存在していることを考えても、福井県内でこれまでどうしてこの滝があまり知られていないのか不思議なくらいです。

滝の名前の由来は、中の滝が訛つてなかん滝となったようですが、この二本の滝の総称なのか片方だけの名前



▲どこにも誇れる立派な滝です！カラーでないのが残念ですね！

なのかは不明です。何れにしても永年越知山を守る活動をしてくださっている越知山泰澄塾の諸先輩方とも協力して、この滝をもっと有名にしていきたいと考えています。門徒の方々もお時間がありましたらぜひ一度ご自分の目で確かめていただきたいと願っています。

政府の目指す「人に優しいデジタル化」とは？

鯖江市 松島 守

2016年にマイナカードという制度が発足した。でも、普及率は伸び悩み業を煮やした政府は、マイナポイント事業というものを立ち上げた。ご存じの通り「カード取得」「マイナ保険証の利用登録」「公金受取口座の登録」をした人に最大2万円分のポイントを

付与するキャンペーンによる強力なアメによって、思惑通り今年5月現在の普及率は72.13%と驚異的に進んだ。昨年6月の段階では、現行の保険証とマイナ保険証との選択制を打ち出していたのだが、河野デジタル相が、唐突に2024年秋に保険証廃止を表明しマイナカードに一本化する関連法案が成立した。又、現在本人確認の資料として認められている運転免許証等も今後、利用できなくなる予定です。このよつな、威しともとれる方法で国民を誘導し締付けようとしている事も普及が進んだ要因の一つだと思ひます。

この事業に、2兆円もの多額の血税を投じながら、準備、要員不足とあわてるが為に、数多くのトラブルが発生しており、今後とも収拾がつかなくなる事が懸念されます。トップの謝罪会見が行われましたが、人間のやる事ですからと他人事、開き直りともとれる答弁を終始繰返す対応には、責任も自覚も感じられませんでした。

行政文書の間違いならゴメンナサイですむかもしれませんが、医療に関する手違いは国民の健康や生命に重大な影響を及ぼします。一人の国民として、第2の住基ネットにならない事を願ひます。

新聞の川柳にこんなのが
「国民はマイナカードで 鵜飼の鵜」

飲み過ぎて 徳利逆になりました

小倉 野村 軍一

今日の写真はね、嬉しいことがあったので一人でチビチビやっていたら、つい飲み過ぎちゃったの……なあんな話ではないのであります。信じられないかもしれないけれど、この写真は正真正銘の蜂の巣です。30年近く前に聞いた母親の話では、この蜂の名は『徳利蜂』というらしい。お酒を飲むときに使うあの徳利の形に似ているからこんな名前になったのでしょね。こうして見ると気球のように宙に浮かんでいるようにも感じられるけどそうではありません。屋根裏にシッカリとくっ付いているのです。



母の話では、この蜂の巣が家の何処かに来ると、それはそれは縁起がイヤらしいの。実は我が家にこの蜂の巣

が出来るのは私が知る限りではこれが二度目ですね。二十数年前にも玄関先こんな巣が出来たのです。その時、先に嫁いだ長女に赤ちゃんが授かったの。皆でお祝いしたのだけど、その孫は今、大病院で頑張っています。嬉しいことです。有り難いことです。さてっと、今回はどんな慶事が訪れるのやら……私はそれが気がかりなの。ヒヨツとすると、この私の頭の髪の毛が20本程増えるのかもしれないなあ……って期待しています。

三人の恩人とのお別れ、 そして念願の慶事

小倉 渡邊 千代一

去年は祐善寺にとつて大事な人が3名、旅立ちました。旧総代が3名です。私にとつて3名共に深い関係があり、悲しみに耐えられません。

叔父である渡邊弘毅さんは、働き者で地元の野菜を夕方に取りに来て福井市場へ運び、その足で大阪市場へ持つて行き、福井に帰ってくる毎日でした。いつ寝るのかなあ、と思う位に働いた。そして、若くして市場に店を出すまでに出世し、しかも、寺の役員を50年余り務めた。自分が中学校の頃に、両親から「見習え」と良く言われた。我が家の誇りでした。もう一人は、会社の先輩で島助右

衛門さんです。役職でありながら頭の低い誰からも愛され、自分には優しく良く可愛がって頂きました。

最後に松島栄さんは、ふたつ年上の先輩で祐善寺に近く、寺の行事に毎回参加し我々に教えて下さいました。

ご三名共、寺にとつては偉大な人達で冥福をお祈りいたします。

そんな中、今年に入つて面白い話が舞い込んできました。若き坊守、後継。そつです。若院に嫁さんが決まったのです。私は連絡を受け、身体が震え、喜び、涙しました。おめでとう。

秋回りで若院が来られると、「早よう嫁さんもちええ！」とセクハラと言われようが毎回言つてきて……。辛かったらうな……。ごめん……。そして、早く赤ん坊を……願つていま

す。私も役員をあと何年出来るかわからないが、楽しい思い出を作つていきたいと思ひます。



令和5年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に互つて護持していただくために、護持費をお願ひしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようよろしくお願ひします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相続講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸 一〇,〇〇〇円(以上)

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で任職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座
(〇〇七七〇―九―三〇七二―)
- ・ 加入者(祐善寺)

◇志納期限

毎年十一月末日

へ振り込む

仏像修理からその後(上)

「ごつあま会代表 田中茂美

私の住まいする滝波には、五智如来をはじめ多くの仏像があります。大

日・薬師・宝生・釈迦・阿弥陀の5軀の如来、聖観音・地藏の2軀の菩薩、多聞・持国の2天。9軀の仏像は全て櫨の一木造りで、五智如来堂に祀られています。全て文化財に指定され、その護持、管理は滝波町自治会（古くは区又は集落）が行っています。地区では「ごつあま」と親しみを込めて呼んでいます。

これら仏像は、約千年前、平安後期・藤原時代に造られ、高野山（たこのさん）薬王寺に祀られていました。薬王寺は32院1宇の大寺院と言われ、行基菩薩が北陸行脚（泰澄大師に会いに来た）の途中、1軀の仏像を刻んで祀ったのが始まりと言われる。滝波川の右岸、嵯峨山の麓一帯に建立され、本尊薬師如来を祀る薬師堂、五智如来堂、普賢堂、地藏堂や現在も残る観音堂、西徳寺らが有りました。

しかし、天正2年（1574年）6月、一向一揆で灰塵に帰してしまいました。残っている9軀の仏像は、現在ぼろが谷と呼ばれている谷に打ち捨てられた、或いは先人達が匿ったと伝わり、戦乱が治まった後年に掘り出されています。

高野の地に再びお堂を建てた様ですが、寛政年間の終り頃現在の地に移動したようです。その時建てたお堂は1998年に立て替えました。解体時、腰板や棟札に墨書きの貴重な記録が残っています。

仏像は嘉永年間（170年位前）に修復されていましたが、劣化が激しく阿弥陀様は立っているのがよつこの状態でした。当時の修復は木地の表面に和紙を貼り重ね、漆を塗り、形を整え、彩色が施されていました。ある意味稚拙な手法でしたが、平成の世まで保存できたのはこのお陰とも言えます。先人達の仏像を後世に残すとの強い意志を感じます。

仏像を何とかしなければと念じつつ、多額の費用の工面がありました。

2010年頃より県・市に助成を陳情し、2013年5月19日五智如来の5軀の修復に着手しました。仏像を搬出し大津市の修理所に送り出すその時、それまでの晴天が一気に雲に覆われ雨が降り出しました。「ごつあま」が滝波を離れるのが寂しいので涙雨やわと、涙ぐむ人達も……。

当初3年の修復期間が思いのほか劣化が激しく半年延長し、2016年9月末完了しました。丁寧に解体され、虫食いや腐蝕を補修し、欠損部を補足した修復は平安の往時を偲ばせる堂々たるお姿に蘇りました。漆箔の下から現れたお顔はそれぞれに表情豊か

で個性にあふれています。修復完了を期して福井市郷土歴史博物館での「福井の仏像展」で、通常見られない曼荼羅界に並んだ五智如来は、沢山の来場者の注目を集めました。

（次号に続く）

仏前結婚式 式次第について

このほど尊いご法縁によって当寺若院・優大と森築子様長女・友美さんとの結婚式を、8月27日(日)午前10時より当寺本堂において左記の要領で執行させていただきます。

よろしくお願いいたします。

記

- 一、参列者集合
- 一、参列者入堂
- 一、新郎新婦入堂
- 一、司婚者入堂
- 一、開式のことば
- 一、司婚者焼香・表白
- 一、勤行（嘆仏偈）
- 一、司婚のことば
- 一、新郎新婦誓いのことば
- 一、念珠授与
- 一、夫婦交杯
- 一、親族交杯
- 一、閉式のことば
- 一、退堂

以上

祐善寺の花

〈沙羅の木〉

今年も、境内にある沙羅が沢山、花をつけました。

ご存じのように、沙羅の花は、朝咲いて夕方には散ってしまうという、誠にはかない、人間のいのちのはかなさを象徴しているようでもありますね。仏教において「三大聖木」と言われる沙羅の木。

また、沙羅双樹と呼ばれるのは、お釈迦様が旅の途中で、最期を迎えるときに、横たわった場所の両側に対になった二本の沙羅の木がたっていたことが始まりと言われています。お釈迦様が入滅の時に、周りを囲んで立っていた沙羅の木から一斉に白い花がばたばたと落ちて、沙羅の木もお釈迦様のご入滅を悲しんだとも言われています。日本では夏椿のことを、沙羅と扱ったことが多いですね。



▲沙羅の花には、いのちのはかなさを感じざるをえません。

「没後100年記念 内藤吉堂」展

当寺18代住職 岡崎正鈍師著書が展覧されます!!

明治から大正にかけて活躍された敦賀出身の南画家・内藤吉堂の没後百年を記念して、左記のとおり「没後100年記念 内藤吉堂」展が開催されます。

この展覧会に、当寺18代住職で、詩画もよくした岡崎正鈍師の著書『志那在勤禱志』が展覧されることになりました。

これは、正鈍師が明治9年に東本願寺法主から中国開教の命を受け中国上海別院・江蘇教校の教授として明治初期の困難な状況の中で中国開教に身を削りつつ、上海の有名な文人とも交流した記録が『志那在勤禱志』に綴られており、その中で、明治10年から6年間、東本願寺の上海別院を頼りに中国に遊学し南画を学んだ内藤吉堂師と出会った様子も綴られていることから、敦賀市立博物館より出展の依頼があり、喜んで出展させて頂くことになりました。

もし、敦賀方面へ出かけられたとき、いや、この企画に興味があるかたは、是非、敦賀市立博物館で鑑賞して頂き内藤吉堂師や正鈍師の業績を再

発見して頂けると嬉しいですよ。

どうか、よろしくお願いいたします。

記

「没後100年記念 内藤吉堂」展

■会期

令和5年9月14日～11月5日
前期／9月14日(木)～10月9日(月)
後期／10月11日(水)～11月5日(日)

■会場

敦賀市立博物館2・3階展示室
敦賀市相生町7-8

■入場料

一般300円、高校生以下無料



以上

おくやみ

松島 栄様(越前町森)には、令和五年一月二十日、行年七十五歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。

上野みち子様(越前市帆山町)には、令和五年四月十七日、行年七十七歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より感謝申し上げます。

投稿・お便り募集

この「祐善寺だより」へ、皆様からの投稿をお待ちしています。

日頃、お感じになっていること、社会を騒がせている事件への感想、宗教界やお寺へのご意見、ご家族のこと、趣味のこと、俳句、川柳、思いの出の写真、どのようなことでも奮ってご投稿下さい。(認知症予防にもなりますね笑)

次号の原稿締切は、9月28日です。どうか、よろしくお便り申し上げます。

年忌法要を

お勤め下さい

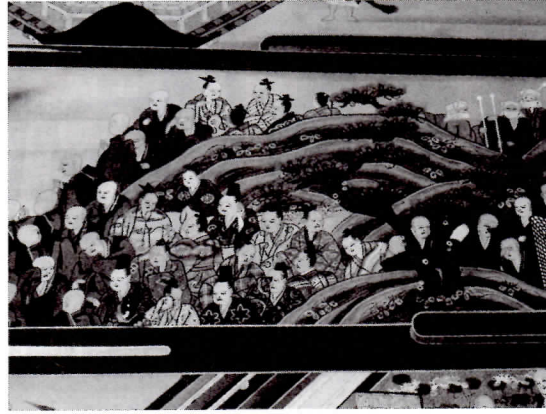
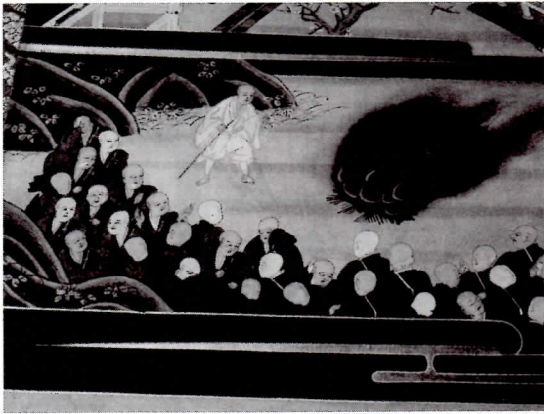
あなたのいのちは、あなただけのものではない。ご先祖様代々からの贈り物!

あなたがいのちを頂いたご先祖様の年忌法要を是非、お勤めしてください!

それは、人としての努めです。

記

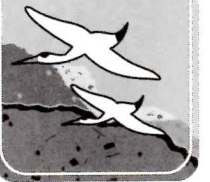
- 五十回忌 昭和四十九年没
- 三十三回忌 平成三年没
- 二十五回忌 平成十一年没
- 十七回忌 平成十九年没
- 十三回忌 平成二十三年没
- 七回忌 平成二十九年没
- 三回忌 令和三年没
- 一周忌 令和四年没



第十九回

親鸞聖人御絵伝

（葬送茶毘）



弘長2（1262）年11月29日、親鸞聖人の柩を乗せたお輿は、五条の橋を渡り賀茂川の東の堤を経て東山・鳥辺野の麓、延仁寺の茶毘所へお運びされました。右の図は、その情景です。

葬送を見守った人の多くは、聖人から尊いみ教えを授かった門弟たちです。右の図にも左の図にも聖人との今生のお別れを悲しむ遺弟たちの姿が描かれています。衣の袖を眼に当てて涙を拭いながら、門弟たちのお念仏の声は途絶えることがありませんでした。

左の図（右上方）に茶毘に付される聖人の柩その左に竹を手にした火葬人がいます

「親鸞聖人御絵伝」

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のご生涯を広く讃えんがために、親鸞の曾孫に当たる本願寺第三世覚如上人が親鸞聖人の求道の歩みを詞を著し、初稿本の絵は、親鸞聖人の直弟西仏房の孫、淨賀法眼に描かれています。

詞の部分「御伝鈔」、絵の部分「御絵伝」と呼び、各寺院の報恩講において御絵伝四幅を余間に奉掛し、厳肅に御伝鈔が拝読されます。

（参考文献『親鸞聖人伝繪』『親鸞聖人 御絵伝』）

其の46



しょうこう 焼香について

読経中の作法についてご説明いたします。

まず、施主の方を中心に、お内仏の前に念珠を持って着座します。座る順番に決まりはありませんが、故人と縁の深い方から座るのが一般的です。

住職が着座され、まず合掌されます。住職にあわせて、あなたも合掌しましょう。読経が始まりますと、お焼香の順番が回ってきます。

焼香は、仏教の儀式には欠くことのできないものであり、お釈迦さまのご在世の当時から行われていたといわれています。

浄土真宗において最も大切なお経の『仏説無量寿経』には、「一切万物がみな、無量の雑宝や百千種の香をもつて共に合成し、その香は普く十方世界に薫ぜん」と、薫香（かおり）をもって浄土のはたらきを教えています。

つまり香を焚く（焼香）ということとは、その薫香により、仏前を荘厳（おかざり）すると共に、浄らかな

光明の世界（浄土）をおもいうかべる縁となります。

それでは、焼香の作法についてお話しします。

まず、焼香の順番が回ってきましたら仏前に進み、ご本尊を仰ぎ見て、身を正します。

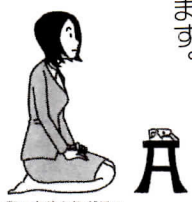
次に焼香をします。左手を卓にそえ、右手で香をつまんで香炉の中に二回入れます。このとき、香を頂くことはしません。

最後に、右手の指先で香盒（香を入れる仏具）の香の乱れを直してから、静かにお念仏（南無阿弥陀仏）を称え合掌します。合掌を解き、頭礼をした後、もとの席に戻ります。

最近では、香炉と香盒を焼香盆にのせ順番に回して、回し焼香が多いようです。この場合も、作法は同様です。焼香盆が回ってきましたら、今申し上げましたように焼香します。



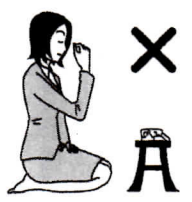
②香をつまんで香炉へ（焼香は2回）



①ご本尊を仰ぎ見る



③念仏を称え、合掌



焼香のとき、香は頂かない

『仏事ひとくちメモ』（東本願寺真宗会館）所収

お知らせ

永代経会

八月七日(月)

十一時半

御齋

一時半

永代経会法要

二時

法話 徳永寺前住職

(越前町上野)

平等明信師

三時

物故者総墓収骨

永代経会とは、亡き人からいのちを頂き、この世を生かさせていたでいる私たちが、亡き人を偲び、亡き人に感謝申し上げます。法会であります。

このかけがえのない法会に、ご家族、ご親族、ご法友お誘いあわせの上、何卒ご参詣下さいますようお願い申し上げます。

当日は、クールビズ(軽装)で午前中よりお寺でゆっくりとお過ごし下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。 合掌

ホームページをご覧ください



QRコードを読み取るか、検索窓に下図の検索ワードを入れて入室してください。

祐善寺 孤独死ゼロ

検索

ホームページへのご意見、ご感想等をお寄せ頂けると嬉しいです！よろしくお願いいたします！

ボランティア募集!!

永代経会・お盆を前に

寺周辺の草刈り。環境整備作業に協力下さい!!

協力下さい!!

日 時 七月十七日(海の日) 八時集合

持 物 草刈機もしくは鎌、軍手、スコップ 等

傷害保険 加入します。

小 雨 決行します。

炎天下で恐縮ですが、ご協力頂ける方は、傷害保険に加入しますので七月十三日(木)までに地区役員、もしくは祐善寺へお電話下さい。

草刈り作業のみならず、草むしり、環境整備等の作業もありますので、どなたでもご協力いただけます。

皆様、ご協力下さいますようお願い申し上げます。



編集後記

★平成12年2月に、「近年はこの寺において、門信徒の皆様との関係が希薄になっていられると言われている……祐善寺と門信徒の皆様とより親しい関係が築かれる架け橋になつて欲しい」との願いから、「祐善寺だより」が発行されました。以来、23年の歳月を要して、ここに第50号を発行することができました。

★今、改めてこの歳月に心より感謝いたしております。本号の冒頭で、「この23年の歴史は、祐善寺にとりましては門信徒様や関係各位の多大なるご支援を頂いて、大きくジャンプした歳月であった」と書きましたが、本当に有難いことでもあります。

★今号が50号記念号ということで8頁立てにして原稿も広く募集しましたが、ペーパーレスでデジタル化の時代にあつては、期待したほどのご寄稿はありませんでしたが、数名の皆様から、とても興味深い原稿を頂きました。有り難うございます。

★8月には永代経会や若院の仏前結婚式を控えています。皆様にはご迷惑をおかけしますが、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

(任職)